いざという時のこと、
どれだけ知っていますか？

9月9日は救急の日

救急の仕事や救急医療体制を皆さんに正しく理解してもらうため、9月9日を「救急の日」、この日を含む一週間（9月9日から15日）を「救急医療週間」とし、全国的に普及啓発運動が実施されます。

この「救急の日」を通じて、救急車の正しい利用や、家庭でできる応急手当について考えてみましょう。

問合　消防本部救急G　☎23-0119

知っていればあわてない！ 応急手当について

私たちは、いつ、どこで、突然のけがや病気に襲われるかわかりません。そんな時に、家庭や職場でできる手当のことを応急手当といいます。その場に居合わせた人がいかに早く応急手当を行うかという事が、病人やけが人の命を救う重要なポイントです。

出血

けがなどで出血が多い場合は命の危険があり、できるだけ早く止血しなければいけません。まず、出血している部位を見つけ、そこに清潔なハンカチ、タオルなどを当て、その上から直接圧迫して止血を試みてください。

圧迫しても出血がおさまらない場合は、圧迫する位置が外れていたり、圧迫する力が弱いことなどが考えられます。確実に止血するまで圧迫し続けてください。

熱中症

熱中症を発症する場面といえば、炎天下の屋外が思い浮かびますが、実は屋内で発症する場合も多くあります。それは外気温が上がるにつれて、思いのほか室温が高くなっていることに気づかないことが多いからです。熱中症はどの世代でも注意が必要ですが、特に高齢者の方は温度に対する感覚が鈍くなるため、室内でも熱中症にかかりやすいといわれています。

立ちくらみ、手足の筋肉がつるなどの症状が出たら、涼しい場所で安静にして、塩分を含んだ飲み物（スポーツドリンクなど）を飲んで体を冷やしてください。

やけど

やけどはまず冷却することです。冷却方法は、手や足の場合、水道水を流したままの洗面器やバケツに15～30分程度浸して下さい。この時、直接水を当てると皮膚がはがれてしまう可能性があるので避けてください。

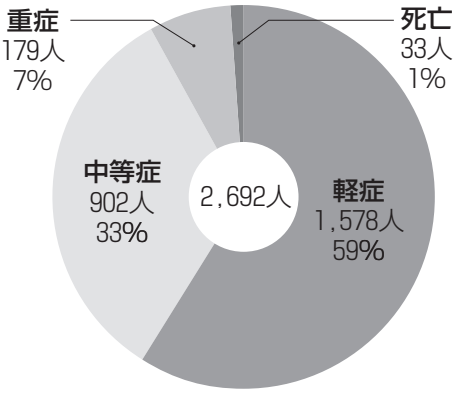
また、顔や身体の場合は、水で湿らせたタオルを絞り、やけどした場所にやさしく当てます。水ぶくれは傷口を保護する役目もあるのでつぶさないようにして、すぐに近くの医療機関を受診してください。

救急車の適正利用についてのお願い

近年、救急車の出動件数・搬送人員数はともに増えており、平成29年中は2915件の救急出動がありました。

救急出動における救急搬送の約60％以上がその日に帰宅できる軽症の傷病者でした。また本来、救急車を利用する必要がない場合もあります。救急車の出動が重なることで本当に緊急性のある傷病者への対応が遅れてしまい、救える命が救えなくなる恐れもあります。

一人ひとりの心掛けによる救急車の適正利用にご協力ください。



平成29年中津島市搬送人員別傷病程度の割合

救急車の誤った利用例

- 今日が入院の日だから
- 交通手段がないから
- 早く診療してもらえると思うから
- 病院を探すのが面倒だから
- 処方された薬がなくなったから

消防本部では、本当に救急車が必要な方に役立つよう、平成28年1月から救急車の後部にステッカーを貼り、適正利用の周知を図っています。

皆さんが考え行動することで、本当に救急車が必要な方のために役立ちます。

救急車を呼ぶか迷ったら…

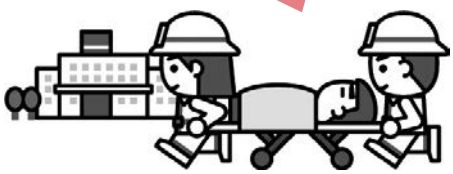
救急車が必要なのか迷った場合には**救急医療情報センター（☎26-1133）**に問い合わせも可能です。

こんなときはすぐに119番に連絡を！

- 意識がない、または痙攣（けいれん）を起こしている
- 胸が締め付けられるような痛みがある
- 息苦しさおよび呼吸がしにくい
- 突然に手足に力が入りづらくなった
- 突然に言葉が出にくくなった

119番は、弥富市にある海部地区消防通信指令センターに繋がります。その際に住所や目立つ建物などを伝えてもらえると、迅速な出動に繋がります。

救急医療 ～救急車の受け入れ～



医療機関は、患者さんの重症度に応じて初期、二次、三次と段階的な整備がされています。

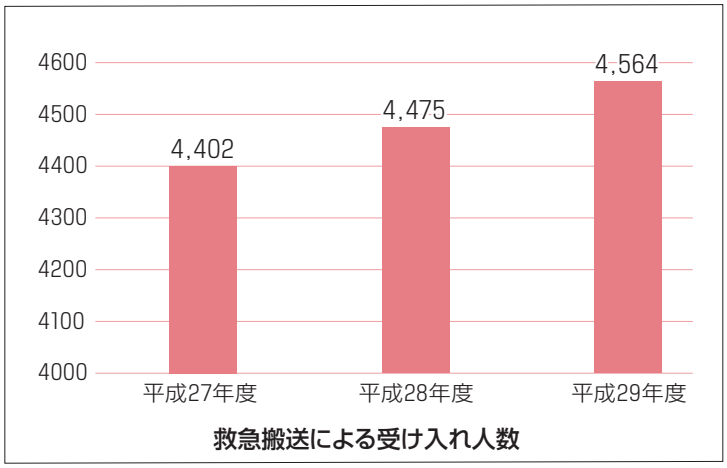
初 期救急医療機関とは、主に入院の必要がなく、病気やけがの程度が軽い患者さんに対応するところです。かかりつけ医（お近くの診療所）や津島地区休日急病診療所、海部地区急病診療所などになります。

二 次救急医療機関は、初期救急医療機関の機能に加えて、中等症、重症の患者さんにも対応できる施設で、入院の必要な救急患者さんを受け入れているところです。津島市民病院はこの二次救急医療機関となります。

三 次救急医療機関は、初期と二次救急機関では対応が難しい重症患者さん（重度外傷、広範囲熱傷など）を受け入れているところで、救命救急センターと呼ばれるところです。

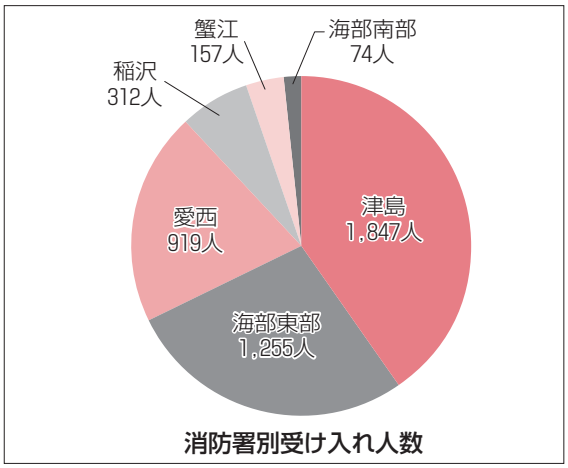
市民病院は、二次救急医療機関として24時間365日救急車の受け入れができるように対応しています。受け入れる側として医師、看護師を始めとする医療スタッフの日ごろからの連携をとり、技術と経験を重ね、また対応できるような高度な設備を備えています。

毎年、搬送依頼件数は5000件程度あります。しかし残念ながら、要請された救急車を全て受け入れられるわけではありません。医師が別の患者の手術中のため、救急車の受け入れが重なったためなどの理由で、受け入れできない場合もあります。



救急搬送による受け入れ人数

救急車の受け入れは、救急外来の担当者だけの努力で増やせるものではありません。救急診療を担当する医療者の人数、効率的な診療、入院を受け入れる病棟看護師や各診療科の協力など、さまざまな要素が関わります。



消防署別受け入れ人数

平成29年度に受け入れた救急患者4564人のうち、津島消防署からの受け入れは1847人・4割で、残りの6割を津島消防署以外から受け入れています。津島市民病院は救急車を受け入れる2次病院として、津島市民の患者さんだけでなく、海部地域の患者さんを海南病院と共に受け入れています。

ここ数年の当院での救急車の受入台数は増加傾向にあります。今後も引き続き、できるだけ多くの患者さんを受け入れられるよう日々努力していきます。

市民病院では、救急車での来院だけでなく、緊急性を要する患者さんの診療を担当しています。夜間、休日の救急外来は、当直医師以外の診療科も協力し合って、対応しています。病状や時間帯によっては、より適切な医療機関(三次救急医療機関など)での受診をお勧めすることもありますのでご理解ください。

救急隊現場到着から市民病院へ搬送されるまで

救急隊は救急要請があれば出動し、現場に到着すると傷病者の病態（症状）の観察と管理を行います。

傷病者の重症度やかかりつけ医、服用薬、既往歴などの確認を家族や現場に居合わせた方などからの聞き取りを行い、最善と思われる搬送先を探していきます。

病院には救急隊からの直接連絡が入るホットラインという電話があります。

救急隊が市民病院を搬送先候補にすると、市民病院の救急外来にホットラインで連絡が入ります。

救急専門医師などが連絡を受け、救急隊と症状の確認をし、受け入れが可能かどうかの確認をし、可能であれば当院へ搬送をしてもらうよう伝えます。

救急車は現場を出発し、市民病院へ向かいます。

救急車が到着するまでに、担当の医師、看護師などは、すぐ受け入れられるよう準備し、救急車の到着を待ちます。事前に症状を確認しているので、必要と思われる機器を確認し、点滴薬の用意をするなど、その症状にあった準備が始められます。

救急車が市民病院に到着すると、すぐ、必要な検査・治療を開始します。

市民病院の救急外来には、ベッドが3台あり、救急車で搬送された患者さんへの対応がいつでもできるよう待機しています。

問合 市民病院管理課管理G ☎28-5151 内線2201

地域の緊急医療

地域の救急医療を守るために心掛けること

かかりつけ医を持ちましょう
診療時間内に受診しましょう
感謝の気持ちを伝えましょう

問合
- 津島市保健センター ☎23-1551
- 愛知県救急医療情報センター ☎26-1133
  http://www.qq.pref.aichi.jp
- 津島市消防本部 ☎23-0119
- 海部地区急病診療所 ☎25-5210
- 津島地区休日急病診療所 ☎24-3611

状況に応じた救急医療体制

休日や夜間の救急医療体制を、病気やけがの症状や緊急度に応じて整備しています。

軽症患者…第1次救急医療

①平日夜間診療（海部地区急病診療所）
平日夜間の内科・小児科は、海部地区急病診療所で、診療を行っています。

②休日在宅当番医
日曜日、祝日の外科は、津島・海部両医師会の開業医が当番制で、診療を行っています。

③休日急病診療所（津島地区休日急病診療所）
日曜日、祝日の内科・小児科は、津島地区休日急病診療所で、診療を行っています。
診察の結果、入院や手術などの治療が必要な場合は速やかに第2次救急医療機関へ転送されます。

重症患者…第2次救急医療
第1次救急医療で対応できない、入院や手術を必要とする救急患者を診療するものです。

重篤患者…第3次救急医療
特に生命に危険を及ぼすような重篤救急患者を診療するものです。